

# HENRY SCHEIN® Information Vol.11

ヒト・モノ・コトから考える

## "おもてなし"のしくみ

歯科医院を含めた医療現場においてたびたび耳にする言葉「ホスピタリティ」。

主に「おもてなし」を意味する言葉として広く知られていますが、その語源は「ホスピス」から派生したと言われ、病院を意味するホスピタルも同じ語を起源としているそうです。

そんな密接な関係にある医療とおもてなしですが、医療現場ならではの安らぎを実現するのは、簡単なようで実は意外と難しいものではないでしょうか。

今回は、独自の手法でおもてなしを実践されている3件のクリニックにお話を伺ってきました。

### ● Interview-1



マニュアル通りではない、スタッフ一人ひとりの個性を尊重した接遇を実践しています。

しらとり歯科・矯正歯科 (千葉県君津市ご開業)  
白鳥 智也 先生 白鳥 真理 さん

千葉県君津市で2009年に開業された しらとり歯科・矯正歯科 様。周辺には郊外型の店舗や公園が多く立ち並ぶ地域で、小さなお子様から高齢の方まで幅広い年齢層の患者さんが来院されるそうです。今回、院長の白鳥智也先生と、副院長でトリートメントコーディネーターを務めている白鳥真理さんに、ホスピタリティを重視した患者さんのおもてなし術についてお伺いしてきました。

### 旅館のようなおもてなしをしてくれる医院

当院は2009年に開業しましたが、設計段階から高めのパーテーションの設置や完全個室のカウンセリングルームを設けるなど、患者さんの過ごしやすさを第一に考えた医院づくりを行ってきました。

また、設備面と同様に重要視しているのがホスピタリティです。より患者さんに寄り添った対応ができるよう患者接遇セミナーにも頻繁に参加しており、学んだ内容は定例ミーティングで共有し、ケーススタディを交えながらスキルを磨いています。例えば、以前参加したセミナーで「人の第一印象はわずか数秒で決まり、その第一印象は二度と変わらない」と学んだことがあります。それ以降、受付スタッフ全員が「患者さんと最初に接する立場」であることを自覚し、表情や声の出し方に特に注意を払うよう徹底しています。

あるとき、患者さんに「しらとり歯科は旅館みたいなおもてなしをしてくれるから安心して通えるよ」と仰って頂いたことがありました。居心地の良い医院にしたいという私たちの想いが届いたようで本当に嬉しかったです。



月に1回以上のミーティングで、セミナーで学んだ知識の共有やスキルアップを図っている。

### 居心地の良い医院を実現するために

患者接遇の指導は、私(副院長)が中心となって行っていますが、教える際に大事にしていることは「スタッフそれぞれに合った接遇方法をアドバイスする」という意識です。マニュアル通りに動くのではなく、「患者さんに寄り添った接遇をする」という目的を理解した上で、スタッフの性格や個性を活かした接遇を実践しています。常におもてなしの気持ちを持って患者さんに接することの重要性は、新しく採用するスタッフにも面接の時点でお伝えし、理解してもらっています。

また、私たちはホスピタリティの面において、受付スタッフや歯科助手は非常に重要なポジションだと考えています。居心地の良い医院を実現するためには、歯科医師や歯科衛生士の頑張りだけではなく、受付での温かいお声掛けや、治療前後に歯科助手が心のこもった対応をすることが必要不可欠だと思います。

これからも患者さんとの出会いを大切に、心から安心して治療を受けて頂くため、スタッフ全員が笑顔で誠実に患者さんに接していくたいですね。



医院のスタッフ全員がチーム一丸となって温かい対応を行うことが重要と語る院長と副院長。

SEMINAR

2022年2月17日(木) 患者接遇セミナー開催予定!

※詳細が決定次第、担当営業スタッフよりご案内致します。





(医)PRIDE会  
吉井矯正歯科クリニック  
(東京都調布市ご開業)  
院長 吉井 賢一郎 先生



メディカル・デザイン株式会社  
代表 水口 真理子 さん

## 目指したのは、五感で安らぎを感じてもらえる、くつろげるクリニックでした。

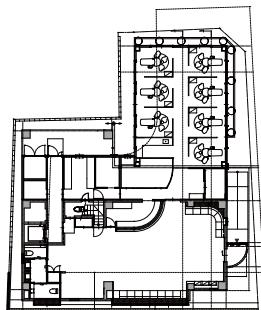
東京都調布市の駅からほど近い場所で開業されている **吉井矯正歯科クリニック** 様。

院長・吉井賢一郎先生は祖父の代から数えて3代目になるそうですが、いつかは患者さん目線のリラックスできるクリニックを作りたいと思っていたそうです。今回、リニューアルに伴う紆余曲折について、吉井先生と、デザインを引き受けたメディカル・デザイン株式会社代表・水口真理子さんに語っていただきました。

### リラックスできる空間への想い

今回のリニューアルを決断した一番の理由は、患者さんにより落ち着いた環境の中でリラックスして治療を受けて頂きたいと思ったからです。そこでまず私がイメージしたのが「五感に訴え、くつろげる空間」でした。空気・音・匂い・採光などにおいて健康的で心地よい環境を作りたいという想いを話したところ、水口さんや当院のスタッフたちが様々なアイデアを出してくれました。さらに、使用素材による効果やコストなどのメリット・デメリットの検証を繰り返し、構想期間は2年以上に及びました。

また、リニューアルに際して重要なのが、なるべく診療を止めないとということです。そこで検討を重ね、敷地の半分を工事している間は未着工の建物で診療を続け、工事が完了したら新しい建物に移って診療し、その間に残りの部分を工事する、という流れで進める計画にしたところ、完全に休診しなくてはならない期間は2週間程度に抑えることができました。こうして院内環境を整備できたおかげで、リニューアルから1年半ほど経った今でもスタッフが活き活きと働く姿が見られ、とても嬉しく思います。



医院図面。改装前に駐車場だったスペースもすべて待合室にし、今では40名超の患者さんが待機できる場所になっている。

また、待合室内に設けたキッズコーナーは、子どもたちが楽しく過ごせるよう、ポップな色合いでテーマパークのような空間をイメージしました。



「カラフルでありながら待合室の落ち着いた雰囲気にフィットするような色調をご提案しました。椅子は特殊加工されており、汚れても簡単にきれいにできます。」(水口さん)

そして、「くつろげる空間」を実現させるうえで私が一番こだわったポイントが空調システムです。極端なことを言えば、花粉症の人が当院に来た途端、症状が治まるくらいのレベルまで空気をきれいにしたいと思っていました。当院で導入したシステムでは、院内の空気が1時間で完全に入れ替わるようになっており、その様子を監視するモニタリングシステムを待合室とバックヤードに設置しています。また、より一層患者さんに安心して頂けるよう、WELL認証(※)を医療機関で初めて登録しました。公的な機関からきちんと評価されることで、空調に関する説得力は飛躍的に向上したと思います。



空調のモニタリングシステム。空気の正常レベルをリアルタイムで確認することが可能で、患者さんも積極的にご覧になっているそうです。



換気システムによって常にクリーンな空気が流れる診療室。外気取入口の手前には高性能フィルターを設置してPM2.5などをキャッチし、空調の室内吸い込み口には活性炭フィルターを使い、カビなどのアレルギー物質を99%除去しています。

### くつろげる空間と五感

リニューアルにおいて、複数のメンバーでイメージを共有するためには医院のコンセプトを決めることが重要です。そこで私が好きなハワイのホテルのような、明るく爽やかな「くつろげる空間」を作る、ということを軸に考えることにしました。すると水口さんは実際に現地に赴き、採光や音響、空調管理など多くの生きた情報を持ち帰ってこられ、当院のスタッフと一緒にイメージに近づけるための様々な提案をしてくださったおかげで、理想通りの医院づくりを実現することができました。

具体的な施行例を挙げると、まず、診療室の天井を高くし、窓を大きくすることで自然光を最大限取り入れながらも、直射日光が入らないようにドレープカーテンによって日差しの強弱を調整しています。エントランスでは季節のお花で患者さんを迎える、待合室はゆったりとくつろいでいただけるよう、リニューアルを機に最大限のスペースを確保しました。床材は、ほこりを極力滞留させないように静電気を抑える機能を持ったものに張り替えたところ、清掃性が格段に向上し、掃除が楽になったとスタッフも喜んでいます。



日差しを調整してくれるドレープカーテン。「自然光を浴びることは体内時計の正常化に効果的で、患者さんだけでなくスタッフの体調管理にも有効です。」また、床材は天然素材のリノリウムを使用。「リノリウムは抗菌・抗ウイルス効果もあり、安心安全を第一に考える医療施設におすすめです。」(水口さん)

### また行きたいと思ってもらえるクリニックに

歯科医院は「できれば行きたくない」と思われることが多い場所だと思います。しかし設備面に気を配ることで通院のストレスを緩和でき、「また行きたい」と思ってもらえる場所にすることも可能ではないでしょうか。また、技術の発展や材料の改良によって歯科医療は常に進化していますが、同様に、医院の設備やおもてなしの気持ちもアップデートを続けていく必要があると思います。過去・現在・未来と、来院されるすべての患者さんに満足して頂けるように、今後も水口さんやスタッフたちと協力しながら、医院全体のアップデートを続けていきたいですね。



『快適医院をつくるインテリア医学』  
水口真理子・著



(医)恒陽会 松浦歯科・矯正歯科（愛知県岩倉市ご開業）  
理事長 松浦 貴斗 先生

## 予防歯科の重要性をお伝えするために、ケア用品を通じた情報発信を行っています。

(医)恒陽会 松浦歯科・矯正歯科様は、愛知県岩倉市に大正10年に開業され、長きにわたり地域密着型の診療を行ってこられました。現在は4代目の松浦貴斗理事長が、「治療から予防メインテナンス」というコンセプトのもと、予防を第一に考えた診療をされています。今回は、患者さんに商品の特長が伝わりやすい物販品のディスプレイ方法や、情報提供の工夫などについてお伺いしました。

### 患者さんにとって分かりやすく、手に取りやすく

当院では、日常のセルフケアと定期的なメインテナンスを通して患者さんに予防歯科の重要性をお伝えすることが大切だと考えています。そのため、ケア用品に関する情報提供や物販品のディスプレイも重要視しており、分かりやすい表記や手に取りやすい配置を心掛けています。例えば、「歯周病ケア」「むしばケア」などカテゴリごとに陳列／スタッフが各自のイチオシ製品を自作ポップで紹介／話し言葉や患者さんのわかりやすいワードを用いる／具体的な数字（例：予防効果80%）を大きく書くなど、様々な方法で患者さんに伝える工夫をしています。また、新製品やおすすめ製品は受付のカウンターに置いて目立たせています。これらの製品ラインナップやディスプレイは、歯科衛生士が中心となって考えています。



（左）商品名を大きくはっきり書き、分かりやすく。  
（右）歯間ブラシの実物を貼り付けることでサイズが一目で分かる。



「歯周病ケア」など、段々ごとにカテゴリ分けして配置しているため、手に取りやすい。

その他にも、市販品と歯科専売品の成分の違いや、スタッフ自身の使用感や体験談を患者さんにお話しすると興味を持って頂けます。実際に当院で歯磨剤を購入された患者さんから「市販品より歯がツルツルになった」「知覚過敏が治ってきた」といった感想を頂くこともあります。私たちが積極的に情報を発信することの重要性を実感しました。的確な情報を提供するには知識のアップデートが必須ですので、特にケア用品に関するセミナーはスタッフ全員で頻繁に受講しています。

一生涯自分の歯で過ごすためには、ご自宅でのセルフケアは欠かせません。これからもスタッフ全員で患者さんを支え、より快適な生活を送って頂けるように物販品を通したおもてなしを実践し、予防歯科の重要性をお伝えしていきたいです。

### わたしのおすすめ



HSJグループ企業  
社員がセレクトする

私がおすすめする商品は…

デンチャー ステリスパークル

です！

#### 特におすすめしたいポイント

この「デンチャー ステリスパークル」は、堆積した歯石や粘着物を短時間でしっかりと溶解除去し、除菌にも効果を発揮してくれます。超音波洗浄にも対応しており、レジン床やクラスプ類を傷めずに又メリも同時に洗浄できます。使用後は折りたたんで捨てることもできますので非常に使いやすくなっています。

また、酸性タイプの洗浄液ですが、補綴物への影響が少ないとところも非常にオススメです。

#### 今号のおすすめ商品

超音波洗浄対応

希釈せずに原液で使用

義歯洗浄液（歯石除去）

デンチャー ステリスパークル

- ①特殊界面活性剤が又メリもしっかり洗浄！
- ②除菌にも確かな効果を発揮！
- ③矯正用リテナー、マウスガードなどにも◎

※「使用方法」「使用上の注意」をご確認の上ご使用ください。



Henry Schein Private Brand



商品

#### 今号の担当者

オリエンタル歯科器材

福岡支店 主任  
金澤 裕希

担当エリア：  
福岡市、春日市



#### 実際に使用されたお客様のお声

田中歯科医院 院長 國松 聖志 先生（福岡県春日市ご開業）



「デンチャー ステリスパークル」を導入してから、義歯等の洗浄が非常に楽になりました。最近義歯の汚れを気にされる患者さんが増えてきていますので、超音波洗浄にも対応しているこの商品を使用することで、歯石や又メリを短時間で洗浄、除菌ができ、患者さんにも喜んで頂いております。また患者さんからお預かりした義歯等を傷めにくいところも安心して使用できる理由です。非常に使いやすい商品だと思っています。

- ・総義歯 1個に対し 100ml が目安です
- ・以下の義歯での使用は避けてください  
リベース材使用／ノンクラスプデンチャー



10分間超音波処理後

#### 今号を担当したのは…

OD  
ORIENTAL 歯科器材  
HENRY SCHEIN®

株式会社オリエンタル歯科器材は、九州一円を営業エリアとする歯科器材商社として、歯科医院様と七十年の間、歯科医療に携わって参りました。

今後も新しい時代に対応できる企業であるために、新たなチャレンジを繰り返し、地域医療の発展に貢献する所存でございます。

# 歯科麻酔科医も遭遇する偶発症



雨宮 啓 先生

藤沢歯科ペリオ・インプラントセンター  
CDAC (Clinical Dental Anesthesiologist Club) 代表

東京歯科大学を卒業後、大学院生として歯科麻酔学を専攻。今現在、藤沢歯科ペリオ・インプラントセンターを開設して12年が経ちました。  
今の私があるのは、白鳥清人先生と、歯科麻酔学との出会いがあつてのことです。  
そこで今回、大学を卒業するとなかなか学ぶことのできない「臨床歯科麻酔学」の大切さをお伝えしていきます。

藤沢ペリオ・インプラントセンター  
雨宮啓先生 監修シリーズ  
役立つ歯科麻酔学の知識

第11回 / 全12回

## 歯科診療に関わる医療事故の実態は?

歯科治療時に患者が急変した際の対応については、AHA BLSガイドライン2020にそってVol9・10号でお伝えしてきましたが、実際に歯科診療における医療事故がどのくらいの頻度で起きているのか調べてみると、2002~2010年の9年間で法医学解剖の対象となった歯科診療関連死は24例であったことが2013年の日本法歯科医学誌に報告されています。24例を9年間で単純に割り算をすると1年間に2.6件の死亡事例が起きている計算ですが、新聞や報道などでわからない潜在的な症例があることや、この論文のアンケート回収率が30%という点を換算すると、1年間に5~10件の歯科診療関連死の症例数が予想されます。また、死因別割合に注目してみると「心疾患」が7例、29.2%と最も多く、次いで「窒息・低酸素脳症」が4例、16.7%、「アナフィラキシー」が3例、12.5%という結果です。

心疾患(29.2%)

窒息・低酸素脳症(16.7%)

アナフィラキシー(12.5%)

「心疾患」が最も多い点は、高齢者や有病者に対する歯科治療に起因している部分や、局所麻酔薬を使用した歯科治療や歯周病・インプラント治療、抜歯、投薬といった外科的な対応が増えてきたことが背景としてあるかもしれません。私たち歯科麻酔科医は、循環器系疾患患者に対して注意を向けているのはそのためです。医療面接による術前評価に始まり、生体モニタを装着して血圧や脈拍数を測定し、必要があればかかりつけ医との診療情報提供の依頼を行って、循環動態を安定させるために静脈内鎮静法を併用して歯科治療を行うなど…歯科麻酔学的な配慮が欠かせません。安全で快適な歯科医療を行うことが偶発症の発症割合を減らすことにつながるからです。次いで多い「窒息・低酸素脳症」ですが、口腔内で器材や薬剤

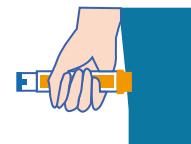
を使用するという歯科の特殊性を考えると、誤飲や誤嚥の可能性が高いことが理解できます。口腔内への異物の落下防止のためには、ラバーダム防湿の使用など、できる対応策を講じることが大切です。そして、3番目に多い「アナフィラキシー」ですが、局所麻酔のみならず、数多くの薬品を口腔内だけでなく内服としても使用する歯科医療環境を考えると、今後も増えていくことが予想されます。そんな歯科麻酔学的配慮の大切さを皆さまにお伝えしている私ですが、2019年8月にアナフィラキシーショックを経験しました。



## 歯科麻酔科医も遭遇する偶発症

患者さんは33歳、女性。「歯周病を治したい」という主訴で来院されました。歯周基本治療を行って、再評価を行いましたが、上顎前歯部と臼歯部に8mmを超える深い歯周ポケットが残存します。担当する歯科衛生士と患者さんとお話しして、歯周組織再生療法を適応することとしました。手術当日は静脈内鎮静法下に、まずは上顎前歯部の歯周外科手術を行います。粘膜骨膜弁を形成し、Er-YAGレーザーで肉芽組織を除去します。根面に残存する歯石を超音波スケーラーで取り除き、エムドゲインを象牙質に塗布して骨欠損部に対してリグロスと混和した補填材を填入して縫合します。45分程度の手術時間で終えることができたので、患者さんの体調など問題ないことを確認し、そのまま上顎大臼歯部の歯周外科手術と同じ術式で行いました。合計90分程度の手術時間で無事に終わり、顔につけていた穴布を外すと、首から顔にかけて真っ赤に腫れていて、患者さんは呼吸困難感を訴えていました。「尋麻疹などの皮膚症状」と「息苦しさなどの呼

吸症状」を呈していましたので、すぐに「アナフィラキシー」を疑います。すでに装着しているモニタから、血圧や脈拍数、動脈血酸素飽和度に異常が無いことを確認していますが、今後の意識混濁やショック状態が進行する可能性を頭に考えながら、直ちに鼻カニューレから酸素を投与し、アドレナリン0.3mgの筋肉内注射を実施します。徐々に息苦しさは改善し、皮膚症状も落ち着いてきましたので、私としても一安心ですが、アナフィラキシーは1度おさまっても再度発症する可能性がありますので、高次医療機関へ搬送し、対応していただきました。



アナフィラキシー症状の進行を一時的に緩和し、ショックを防ぐためエピペン®(アドレナリン0.3mg)を筋肉内注射

## 生体モニタや酸素ボンベを使いこなす歯科衛生士

このアナフィラキシーだけで終われば良かったのですが、その後立て続けに、合計3例のアナフィラキシーと、低血圧症、血管迷走神経反射を経験することとなりました。これだけの偶発症を経験する中で、藤沢歯科に勤務する歯科衛生士は、生体モニタを装着して血圧やSpO2測定ができるようになり、酸素ボンベを取りに行って素早く酸素投与できるようになりと…日々の歯科臨床でトレーニングされている歯科衛生士の皆さまのおかげで、患者さんに「安全で快適な歯科医療」を届けることができています。



救急車が到着するまでアドレナリン筋注と酸素投与など院内でできる対応を行います。



# 歯科衛生士から見た“これからの歯科医院”



## 第1回 歯科衛生士業務の再考

株式会社TomorrowLink  
代表取締役 濱田智恵子 先生

フリーランスの歯科衛生士として臨床に携わるとともに、歯科衛生士のスキルを通じた人財育成、歯科衛生士人事評価制度の導入などを支援する会社『株式会社TomorrowLink』を設立。歯科臨床コンサルタントとして、毎年1,000人近くの歯科衛生士と関わり、歯科衛生士の学びや成長、予防歯科を目指す歯科医院のサポートに尽力している。

### はじめに

歯科衛生士になって30年になりますが、大きく変わったことと変わっていないことが見えてきました。今回は「歯科衛生士」という仕事について考えていきたいと思います。皆様の職場に取り入れられるヒントとなれば嬉しいです。

### 歯科衛生士の今昔

30年前は歯科衛生士がない歯科医院が多く、歯科衛生士の募集要には「25歳以下」の表記が多く見られました。それは当時、25歳以上は結婚適齢期と言われ、結婚後も常勤として働き続ける仕事という認識は医院側と歯科衛生士側双方低く、結婚と同時に退職していくパターンが多くかったです。その結果20代の歯科衛生士が多くなったと考えられます。

ところが、雇用対策法が改正された、平成19年10月から、事業主は労働者の募集及び採用について、年齢に関係なく個人の能力や適性の判断をし、一人ひとりに均等に働く機会を与えることを目的とし年齢制限の禁止が義務化されました。そして「結婚適齢期」という言葉も死語になりました。結婚するしない、出産するしない、の選択も自由になりました。また今後の経済状況や自分の人生を考え、結婚・子育ての有無にかかわらず、働き続ける歯科衛生士も増えてきました。

### 歯科衛生士の役割=3大業務について

歯科衛生士の3大業務は、歯科保健指導・歯科予防処置・歯科診療補助で、私が歯科業界に入った時と変わりはありません。しかし、現在は歯科衛生士の求人が増えた理由の一つである歯科業界が予防歯科へシフトする中で、患者さんにとっても歯科医院にとっても、この3大業務をしっかりと行うことの必要性が再認識されています。

ここで先生方に質問です。

- ①歯科衛生士専用ユニット(アポイント列)がある。
  - ②歯周治療に常に歯科医師は関わっている。(歯科衛生士に丸投げではない)
  - ③歯科衛生士は患者担当制で診療している
- 上記3つの中で、一つも当てはまらない場合は、非常に危険です。



①の場合は、歯科医師の診療待ち時間だけ歯科衛生士がクリーニングやSCをしているなど、歯周治療やメインテナンス・SPTの流れができるないと、歯科衛生士業務だけのアポイントがなくDrの指示を受けたことのみ行うよう指示待ち歯科衛生士になってしまいます。本当の歯科衛生士の楽しさややりがいも生まれにくいくと考えます。

②の場合は、歯周治療は歯科衛生士の仕事だから関わらない(時間なく関わらない)と丸投げの場合も、歯科衛生士が自己判断のみには限界があります。患者さんの歯科治療(補綴・修復治療など)計画の中にも歯周治療を考え、DrとDHが相談できる診療体制がBestです。

③の場合ですが、定期健診を行っているものの、担当制ではない医院も少なくないです。業務記録を書いているから、固定(担当)でない方が見落としがない、など担当制でなくても大丈夫と思いつかいますが、担当制は歯周治療やメインテナンス・SPTでの患者さんとの信頼関係構築を成功するためには必要なものだと思っています。担当制でないということは、ベルトコンベアのように流れ作業になり口腔内の変化が起きた時に誰も正しく時系列で把握できて

いない、患者さんも「言っていることが違う」「とりあえずその流れに乗れば治る」など勘違いするという状況になる可能性もありますので、担当制であるメリットの方が大きいと考えます。

### これからの歯科衛生士業務

やりがいを持ち、患者さんに治ってほしい、改善してほしいと心から願い学び続けられる歯科衛生士が患者さんを健康へ導けると考えます。現在、歯科浸潤麻酔に関しては話題になり、知識・技術向上のための研鑽も求められる未来となれば、歯科衛生士の医療人としての自覚や覚悟も必要です。

また歯科衛生士は卒業後勤務した医院で、歯科衛生士人生が変わるといっても過言ではありません。歯科医院側の環境づくりも大切だと考えています。次回はチーム医療のために大切なことについてお伝えします。

#### 濱田智恵子先生の著書

##### 院長必読！ 働きたい 働き続けたい歯科医院



クインテッセンス出版 定価￥5,000(税別)

院長が知らない“スタッフの本音”から逆算した医院運営の秘訣が満載！「本音を知る!」「育てる!」「評価する!」の3要素に分けて具体的に述べており、院長先生だけでなく、開業予定の先生も必読の一冊です！

##### ハマチエ式

##### 歯科医院＆スタッフがときめくチーフ育成メソッド



デンタルダイヤモンド社 定価￥3,500(税別)  
歯科医院の成長に欠かせない「チーフ」ですが、有能で責任感のある方が多い一方、独りでたくさんの悩みを抱えているケースも……。本書ではハマチエさんが迷えるチーフの悩みに耳を傾け、アドバイスを送ります！

##### ドリル式 歯科衛生士臨床のBASIC of BASIC 52



デンタルダイヤモンド社 定価￥3,200(税別)  
臨床現場で最低限押さえておきたい、ペーパークで実践的な知識をコンパクトにまとめた一冊。ドリル形式で基礎から学べます。新人DHはもちろん、経験の浅い方や、基本的なことを再確認したい方にもおすすめです。

